



リコー三愛グループ案内

RICOH SAN-AI GROUP 2026

リコーグループ

三愛オブリグループ

サガテレビ

西銀座デパート

エフエム佐賀

瀬の本高原リゾート

日清紡マイクロデバイス

SBSネクサード

SBS三愛ロジスティクス

オプトル

佐星醤油

リコー三愛グループ健康保険組合

市村清新技術財団

リコーグループ福祉会



三愛オブリは自律・分散型インフラ社会の 推進をサポートします

WOTA WOSH 水循環型手洗いスタンド



水と向き合ってきた私たちの
独自技術により
人にも、地球にも
やさしい手洗いが、
どこでもできるようになりました。

日常での利用事例



商業モール・デパート
施設の感染症対策に
ホスピタリティを

学校・キッズエリア
子供が安心して
学べる・遊べる
衛生的な環境づくり

病院・福祉介護施設
病原菌から施設を
徹底的に守る

WOTA WOTA BOX ポータブル水再生システム



水道のない場所での水利用を実現する
ポータブル水再生システム。
排水を再生して
循環利用を可能にすることで、
災害時にも安心安全の水を使えます。

いつでも、どこでも、水道がない場所でシャワーを

空間の清潔さやプライバシーを重視するとともに、緊急時の持ち運びや保管が簡単な、テント方式を採用。避難所をはじめとする災害現場で、WOTA BOXを接続するだけで、誰でもすぐにお使いいただくことが可能です。



蓄電・発電

Powerwallは、家庭用蓄電池です。太陽光などで発電した電気を蓄電することで、電力会社への依存を減らし、エネルギー自律型の生活を目指すことができます。また、停電時でも1台でご家庭の全体をバックアップできる製品能力を備えていますので、より安心な暮らしを実現します。

Lifestyle

Powerwallを導入した
住宅におけるライフスタイル

〈ご紹介ショート動画〉



Powerwall
ライフスタイル



Powerwallが生み出す
安全性と利便性



高性能アプリで簡単管理
遠隔操作・モニタリング、ソフトウェア自動更新



テスラ家庭用蓄電池
Tesla Powerwall

人々の生活と産業を支えるパートナーを目指して

さまざまなエネルギーサービスのシーンで、人々の生活と産業を支えています

Obbli
三愛オブリ

目次

2 ご挨拶

リコー三愛グループの未来へ

三愛会会長 山下良則

4 リコー三愛グループ創業の精神

三愛精神

6 リコー三愛グループ創業者

市村清の生涯

10 市村清ゆかりの地探訪

14 リコー三愛グループの歩み

三愛会会員会社紹介

18 リコーグループ

20 三愛オブリグループ

22 サガテレビ

西銀座デパート

エフエム佐賀

瀬の本高原リゾート

日清紡マイクロデバイス

SBS ネクサード

SBS 三愛ロジスティクス

オプトル

佐星醤油

リコー三愛グループ健康保険組合

市村清新技術財団

リコーグループ福祉会

28 三愛会創立 80 周年 これまでそしてこれから

リコー三愛グループの未来へ

創設者市村清が貫いた信念を学びさらなる飛躍を遂げる時

三愛会会長 山下 良則

(リコー取締役会長)

「三愛精神」でつながる 異業種企業群

リコー三愛グループは、創設者である市村清が唱えた三愛精神に共鳴し、それに基づく経営を実践する企業の集まりです。市村は、1936年、理研感光紙（現リコー）を創業しました。戦後には、おしゃれの店三愛をはじめ、三愛石油（現三愛オブリ）、リコー時計（現リコーエレメックス）、日米飲料（現コカ・コーラボトラーズジャパン）、日本初のリース会社となった日本リース、佐賀県で唯一の民間放送会社である佐賀放送（現サガテレビ）など、業種の異なる企業を次々と創業しました。そして市村は1946年に非財閥系では他にあまり類を見ない異業種企業群における会社相互の連携を図ることが大切だと考え、企業親睦組織三愛会を設立しました。以来、創業の精神を共有し親睦の枠を超え社会貢献などグループ連携の核となってきた三愛会は2026年に80周年を迎

えます。各社が切磋琢磨し、それぞれの事業で大きな成功をおさめてきたことが私たちの誇りであり、今後もそうありつづけたいと考えています。

市村清、ひとりの人間として、 事業家として

ひとりの人間としての市村は、己が正しいと信じたことにはいかなる権力にも屈することがなく、同時に、とても情にもろい、心の温かな人であったそうです。修羅場を切り抜ける時には凄まじい気迫を見せ、一転、家族や友人、部下などに接する時にはとても人情がこまやかで人間味にあふれていたとあります。

事業家としては、明敏な頭脳と強固な実行力に支えられた創造的な事業家でした。多岐にわたる事業を興し、その多くが独創的な着想に基づくもので、それらを卓越した経営実務経験をもって成功に導いたと言えます。

三愛精神

このふたつの人物像の帰するところが、市村が戦後もまもなく標榜した創業の精神「人を愛し国を愛し勤めを愛す」（三愛精神）です。

「人を愛する」とは、自分さえよければという考えを捨てて他人を思いやることです。豊かで安心した生活はそうした気持ちを高めることにもつながります。そのためには「勤めを愛する」ことが必要です。仕事を楽しい、面白いと感じ、さらには歓びをもって働くと、いつそう仕事に打ち込めるようになります。その姿には周囲から尊敬や信頼が寄せられ、働く歓びも大きくなるでしょう。そこまで至るとやがて社会に対する愛となり、「国を愛する」気持ちにも発展すると市村は述べています。また、その著書『そのものを狙うな』においては、「どうすれば世の人がお互いに幸福になれるか、どの道をとればお互いに豊かな生活ができるか。事業の内部外部を問わず、私は事業経営によってこの大命題を追求したい。単なる利潤追求ではなく、その底に何かヒューマニズムの流れる事業家たることを信条としているのである。またその信条こそが、真に事業を繁栄させる根本だと断言してはばからないのである。」とあります。

三愛精神の根幹は、仕事を通して人のため社会のために役立ちたいという思いであると言えるのではないのでしょうか。

私と市村清。 そして三愛精神

「人を愛する経営」。それが今の私の経営ポリシーです。ここに至るまでのお話しをさせてください。

私は今まで3回、市村と三愛精神について学ぶ機会がありました。最初の機会はリコーに入社した時です。市村の生涯が綴られた『茨と虹と』を



読んでいたので、どんな人生を歩み、三愛精神とは何なのかを理解していたものの、今考えると知識として知っているというレベルだったと思います。

これが私にとって心打つものになったのは、その約30年後。米国から帰国し、リコーの総合経営企画室長を拝命した際に学び直した時です。それまでのキャリアで私自身も様々な経験をし、企業の力は頭数ではなく社員のモチベーションの総和であると考えていた私にとって、三愛精神は実感を持って共感するものになりました。

市村はこんなことも言っています。「事業というものは、儲けようとするればおのずと限界がある。けれども、道に即してやれば、自然に儲かるものであって、その利益は無量大だ。」と。これが「儲ける経営より、儲かる経営」という信条です。こうした市村の考えは本社で経営に関わる事になった私に何を大切にしなければならぬのかを教えてくださいました。

そして、最後の学ぶ機会になったのが、2017年にリコーの社長への就任が決まった時です。米国では生産会社の社長を務めた経験はありませんでしたが、リコー本体とはあらゆるものの規模が違います。正直どうしようかと迷った私は、創業者に学んで第二の創業をするつもりで三愛精神に振り返り、実践をするという原点に戻ろうと考えました。そして市村と同世代の経営者を中心に、直接親交のあった方や親族など、生前の市村を知っている方とお会いし、「市村清はどんな人でしたか?」と尋ねまわりました。そうやって改め

て学び直してみると、人を事業の中心に据えるというこの精神は時代を先取りするものだったと実感するとともに、リコーが目指すべきことはここに集約されていると確信しました。そして社長就任の記者会見で、どんな会社にしたいか?と質問を受け、自信を持って口から出た言葉は「社員がイキイキと働ける会社になりたい。」でした。

2023年に経営の舵取りを後任の大山晃に任せて会長になった今、経営ポリシーを聞かれることが増えました。冒頭でお話ししたように、私はいつも「人を愛する経営です。」とはっきりお答えします。それは、これまで人に生かされてきた人生だから、人を生かす経営をしたいという思いと、私のキャリアの節々で立ち返り、支えてくれた三愛精神の二つが原点になっています。

リコー三愛グループの皆さん一人ひとりも、それぞれの「自分と三愛精神」があるのではないのでしょうか。ぜひ機会を作って市村の生涯や三愛精神に立ち戻ってみてください。きっと以前とは違う学びがあると思います。そしてそれを力に、90年、100年と続く三愛会へと飛躍を遂げる時であると考えています

最後に、昭和21年12月、『三愛』（現在の『三愛会会誌』の前身）の創刊にあたり、その巻頭に記された最後の一文を紹介し、私の序とする次第です。

「私の愛してやまない社員諸君、今後とも三愛精神に徹して、日本の発展に全力を傾けようではないか。」

リコー三愛グループ創業の精神

三愛精神 人を愛し 国を愛し 勤めを愛す

リコー三愛グループ創業者 市村 清

西郷隆盛は「天を敬い、人を愛す」と言った。私は、あえて「三愛」と言う。

あの有名な西郷さんとくらべられたいとは思わないが、「人を愛し 国を愛し 勤めを愛す」という三愛精神は、私の生涯の信念である。

人間は万物の霊長といわれるが、人間ひとりひとりの価値は、人によって見方が異なる。学者が偉いと思う者もいるし、政治家、芸術家、財界人のほうが偉いとする考え方もある。そのいずれにもせよ、真に人間の偉さを決定するものは、その人の持つ「愛」の深さと広さではないだろうか。

すべての動物に自己保存があるように、人間も本能的に自己を愛する。下等な人間でも、自分だけは愛している。平凡な人間になると、妻子を愛し、両親を愛し、兄弟を愛する。すこし上等な人間になると、隣人愛にめざめ、次には民族を愛し、祖国愛となり、さらに進めば世界の全人類を愛する。それがなおも徹底すれば、すべての動植物、ありとあらゆるものを自分と同じように愛し、ついには自己以上に愛するようになる。そのためには、自分を犠牲にしても

惜しくない大きな愛の高まりにまで徹する。

この境地は、すでに仏であり神であろう。お釈迦さまやキリストがそれである。このように、愛の深さと広さとが、どのくらいの段階に達しているか、それがその人間の本当の価値を決定するものであると確信する。

「愛」の精神は、すでに多くの偉人たちが説いている。しかし、私はあえて「三愛」の旗をかかげる。「三」とは何か。古典には「一は二を生じ、二は三を生じ、三は万物を生じる」とある。けれども字引に「三愛」とは出ていない。三愛は私の発見であり、同時に絶対の信念である。

私の提唱する三愛主義とは、人を愛し、国を愛し、勤めを愛する精神であるから、世界人類の一員として、まずすべての人を愛すること。日本人としては、祖国日本を愛すること。そして自己がこの世に生をうけた意義を果たすため、自分にあたえられた任務を愛して一生懸命にはげむこと。

三愛主義こそ唯一救国の大道である。日本の全国民が三愛の精神に燃えたつならば、日本国

はますます栄えると信じる。

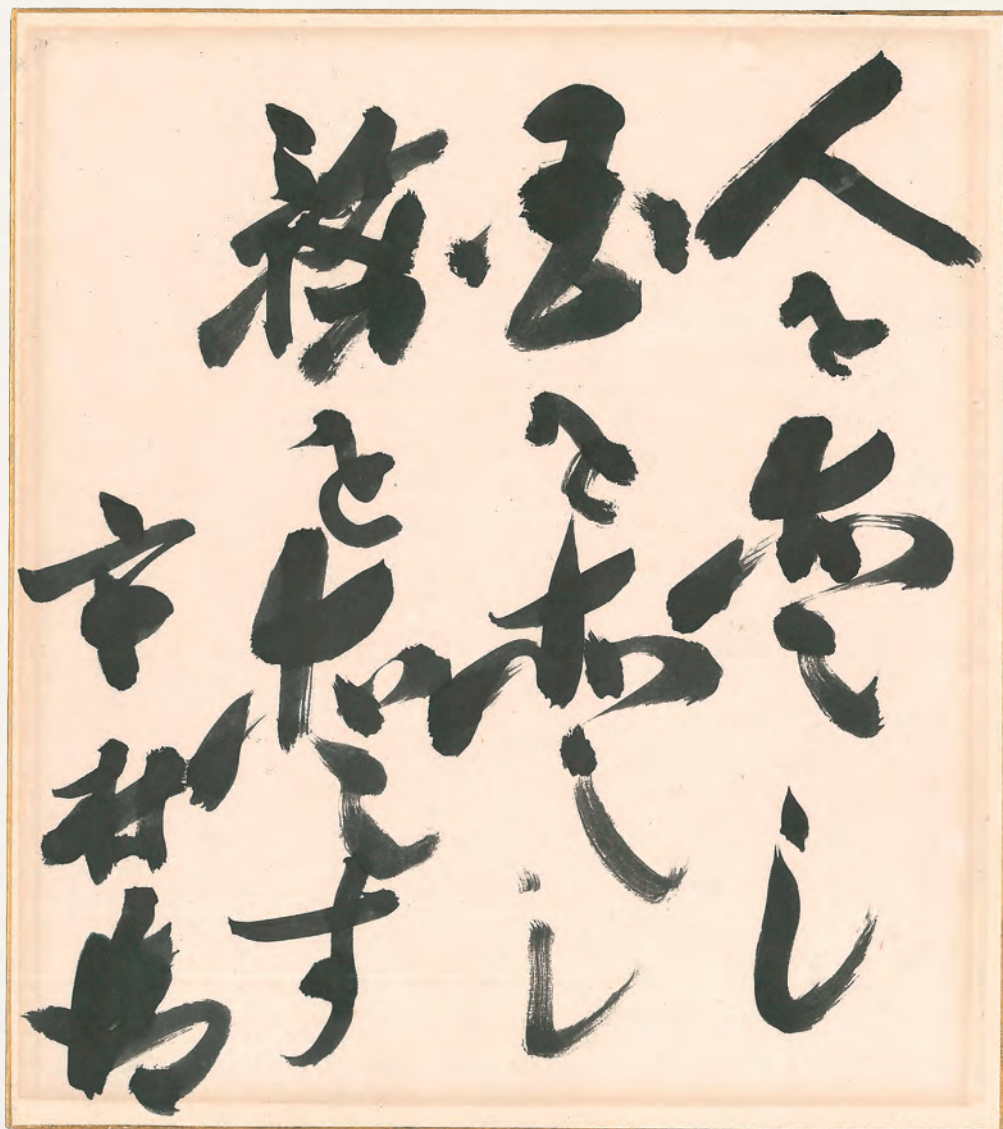
「三は万物を生じる」の三愛精神は、どのような場合にも通用する。事業について言うならば、社員を愛し、資本を愛し、事業そのものを愛する。利益があれば、社員と、資本と、事業全体の運営改善のために、それを三分して使う。教育について言うなら、教師を愛し、生徒を愛し、学問そのものを愛することである。

生活を楽しむなら、衣、食、住を心から愛するがよい。

自己を磨くときは、過去を反省し、現在を努力し、未来に希望を抱いて、そのすべてを愛し感謝する。

私はかねてから、この三愛の精神を信じ、三愛主義と名づけて、それを生涯の念願として実行してきた。事業の上でも「三愛」を商号とするのは、いよいよ自己の信念に忠実でありたいと願うからである。

私の愛してやまない社員諸君、今後とも三愛の精神に徹して、日本の発展に全力を傾けようではないか。



市村 清 揮毫 (昭和 35 年 5 月 23 日 社長室において)

1946 (昭和 21) 年 12 月、「三愛精神」発表当時の日本は、都市のほとんどが焦土と化しておりました。衣食住のすべてに困窮していたとき、機関誌を出すなどは、およそ常人には及びも付かないことでした。

しかし、市村清はわずか 16 ページの粗悪なザラ紙の雑誌ではありましたが、日本の復興と未来の発展を信じ、リコー三愛グループの機関誌『三愛』を創刊、その誌上にかねてより温めてきた自らの人生哲学ともいべき論文を掲げたのです。ときに創業者・市村清 46 歳でした。

発表された「三愛精神」は文語体、旧字体などで記された格調高い文章ですが、難読であるため、1987 年、「読みやすい三愛精神」として現代の文体で著されました。

三 愛 会

リコー三愛グループ創業者

市村清の生涯



成績優秀ないたずら好き

1900（明治33）年4月4日、市村清は佐賀県の貧農の家に生まれた。

士族の出である父は自負心が強く、子供にも非常に厳しかったが、仕事は長続きせず、生活は常に困窮を極めていた。

小学2年生の頃、祖父が進学の元手にと雌の子牛を1頭買ってくれた。「この牛を育てれば、次々に子を産む。それを売って学費にすればいい」というわけだ。清は、わずかな小遣いも餌代に充て、遊ぶ間も惜しんで飼料の草やイモのつるなどを刈り集めたり、夢中になって牛の世話をした。

ところが、ある日、この牛が税金のカタに持って行かれてしまう。祖父は「お国で決めたことだから我慢せい」となだめるが、10歳の子供に分かるはずもない。世の中の不合理に対する反抗心は、このときに芽生えたのかも知れない。

こんな貧しい環境であったが、小学校の成績は常に

トップで、遊びやいたずらでもリーダー格。いたずらに怒って追い掛けてきた先生を、丸木橋を外して川に落としたりしたこともある。

佐賀中学を中退して 銀行に就職

伯母の援助で県立佐賀中学に入学したが、学費を援助される身はつらいことも多かった。情けなく悔しい思いが募り、とうとう中学を退学し、家に戻った。

家計を助けるために野菜売りを手伝うが、事情を知らない旧友たちが「清さんは中学に行つたんじゃないの」ときさやいているのを聞くと、自分の姿がみじめで、たまらなく恥ずかしかった。

そんなとき、共栄貯金銀行で事務見習いを募集しているを知って、応募し、見事に合格。それから2年、給仕のような仕事を続けた。その間に痛切に感じたのは、やはり勉強をしなければ一人前の世渡りはできないということであった。東京へ行つて、勉強がしたい、

その思いを恐る恐る支店長に伝えると、意外なことに、本店への転勤が認められたのである。

青雲の志を抱いて東京へ

19年、上京して本店勤務になる。現金運搬のときに乗る人力車の中や、銀行で待っている間にも学習書を読み、翌年、中央大学の夜間部に入學した。

東京の生活も貧乏の極みであったが、他人の世話にはならないと誓い、水だけ飲んで過ごすこともまれではなかった。

大学2年のとき、資本主義にある不合理から貧富の差が激しくなり、それを改革するために共産主義が起ったという講義を聴いて、衝撃を受け、共産主義に傾倒。一方で、故郷の父母のことを思い、考え悩む日が続いた。当時、共産主義の実践運動は当局の弾圧下にあったからだ。

そんなジレンマの中で、清は結核を患い、今度は死の恐怖にとりつかれてしまった。抵抗療法を強行して



北京に向かう前、生家にて
(中央が市村) (1922)
大学を中退して、大東銀行の北京支店
へ赴任。大陸渡航は人生の大きな転機
となった



中央大学の学生時代 (1920)
貧しさのあまり、共産主義に傾倒
したり、結核を患ったりしたが、
翻意して肉体と精神の健康を取り
戻す



共栄貯金銀行久留米支店の同僚と
(一番上が市村) (1916)
中学を退学して、しばらく野菜売りをして
いたが、共栄貯金銀行の事務見習員に
採用された



小学校 4、5年生 (1910)
貧しい生活だったが、成績抜群、
遊びやいたずらでもリーダー格
だった



理研感光紙発足 (前列中央が市村) (1936.2.6)
1933年、理化学興業の感光紙部長となる。周囲の反発
など紆余曲折を経て、36年、感光紙部を理研感光紙株
式会社として創立、専務取締役就任。吉村商会は解
散し、理研感光紙福岡支店となる



福岡の吉村商会と社員たち (1935)
1929年、理研感光紙の九州総代理店の権利を得て、福
岡に初めて店舗を構えた。理研という大企業との長きに
わたる縁の、最初の糸の結び目が結ばれた。35年ごろ
には、満鉄攻略に成功し、感光紙を大量に発送する



結婚 (1925.1.26)
大東銀行上海分行時代に結婚。妻となっ
た幸恵は市村を励まし、支え続けた

保険外交員から 理研感光紙の重役へ

病気を克服。同時に精神の健康も取り戻していた。

22年、大学を中退して、北京の大東銀行へ赴任。翌年、
上海に異動して、約5年を過ごし、その間に結婚もした。

27年、金融恐慌の影響を受け、大東銀行は閉鎖。市
村は横領の嫌疑で5カ月の監房生活を送る。

嫌疑が晴れて帰国し、熊本で富国徴兵保険の保険外
交の職に就くが、なかなか契約が取れない。夜逃げを
考えたとき、せめて一口取ってから、と妻に励まされ、
ようやく最初の契約が取れたのは熊本に来てから69日
目であった。それからはほとんど拍子で、全国一の契
約高を達成した。

29年、富国徴兵保険を退社。理研感光紙九州総代理
店の吉村商会の権利を譲り受け、福岡に初めて自分の
店を持った。

店主兼外交兼配達人兼荷造りで、がむしゃらに働き、
半年目からは大幅に業績を伸ばす。間もなく新店舗を
構え、朝鮮、満州の総代理店の権利も獲得した。

33年、理化学研究所の大河内正敏博士の招きで、理
化学興業の感光紙部長に就任。ところが、学歴もなく、
一代理店の店主に過ぎない市村への破格の厚遇が、一
流大学出の部長たちの恨みを買うこととなる。思いあ
ぐねた市村は「何もしない」と決めて、遅い入社、昼
はサロン通い、早い帰宅の生活を3カ月ほど続けた。

すったもんだの末、大河内所長の好意で、36年、「理
研感光紙」(後のリコー)が創設され、市村は専務取締
役に就任。36歳であった。以降、市村は理研関係の重
役を10社以上も兼任する。

「三愛」の精神に徹して

45年、敗戦。市村は終戦前夜の重役会で、戦後の方針を「サービス業の開拓」と決定。「三愛商事」を設立した。

サービス業の最も大きな課題は、「どこでやるか」である。市村は東京の地図を広げて毎日眺めていたが、ある日、隅田川と鉄道と東京湾の線が三つともえになって結ばれている点が、銀座4丁目であることに気付いた。戦前から銀座が東京の中心であったことには人知を超えた必然性があった。銀座4丁目は再び中心地になるに違いない、と確信したのである。

46年8月、「三愛」をオープン。食料品を適正価格で売る店として名を高めた。

同年4月、市村は44年に発足した、関連会社からなる「自蹊会」を「三愛会」と改め、12月にはグループ機関誌『三愛』を創刊、誌上で「三愛精神」を発表した。

リコー三愛グループの礎を築く

リコー三愛グループの特徴は、異業種の企業群という点である。「一人一業の企業」というのは、例えば、本田技研やソニーのように、あらゆる力を一点に集中することによって他より抜きん出ることができ、時勢の影響で斜陽産業に追い込まれることもある。一方、多角経営は最高にはなれないけれど、安全性は高い」と市村は考えたのだ。開拓者的な性格にも多角経営の方が合っていた。

敗戦直後、明治神宮は参拝者もなく、すさまじく荒れていた。47年、明治神宮の再建に力を貸してほしいという要請を受けた市村は、元の憲法記念館を結婚式場「明治記念館」として再生。経営は明治神宮の名前でやる

のだから、儲けは二の次だと考え、低価格に設定した。結果、周囲の予想に反して大成功を収め、現在に至っている。

後年、市村が説いた経営哲学の一項目「儲ける経営より儲かる経営」は、明治記念館の創業の中で、自らが体験した真理であった。市村は、明治記念館の運営が軌道に乗ったのを確認し、経営から手を引いた。

戦後の占領下では、日本国籍の航空機の運航が停止されていたが、50年、民間航空の再開が許可された。

52年、航空会社からの要請を受けて、航空燃料を供給する「三愛石油」を創立。航空機への給油にハイドラントシステムを考案し、出願するが、内外の石油資本の競願となる。市村は「日本の空の玄関は、日本人の手でやるべきであり、考えてプランを立てたのは自分である」とGHQに直訴、その場で羽田の給油権を得た。

55年、ハイドラント施設による初の給油が行われる。三愛石油の給油業務は、急速に増大する需要にも迅速的確な施設拡大によって対処して、高評価を得た。(2022年、「三愛オプリー」に社名変更)

戦後、独占禁止法により理研感光紙の生産は戦前の10%程度まで減少したが、49年に業界1位の座に返り咲く。そして、50年には二眼レフカメラの名作「リコーフレックスIII」を発売。感光紙とカメラを2本柱として、新しい時代へと踏み出した。

55年以降、カメラの輸出拡大と市場調査のため、頻りに欧米を訪問。事務機の時代の到来を察知して、リコーなどの製品開発に力を注いだ。

63年、社名を「リコー」に変更。カタカナ三文字の社名は、市村自身が大いに気に入った。

57年、米国カメラショーの帰途に立ち寄ったマイアミ市に、日本の桜を寄贈することを決めた。しかし、桜は病原菌予防のため輸入禁止と判明したため、東洋

原産のオーキッド300本を寄贈。さらに、日本庭園(イチムラ・ガーデン)も築き、日米親善に一役買った。

アイデア社長、躍進する

58年、西銀座の数寄屋橋の堀が埋め立てられ、高速道路が開通。道路下に誕生した日本初のショッピングセンター「西銀座アパート」の初代取締役社長に就任し、センター内に「三愛」を出店。西銀座アパートは有楽町の新名所となった。

62年、福岡の事業家の要請を受け、ココ・コーラ事業に進出した。翌年、ココ・コーラの北九州地区ポトラーとして「日米ココ・コーラポトリング」がスタート。時流に乗って、年々倍増の販売成績を上げた。また鳥栖グリーン・プラント(公園工場)を竣工して、さらに業績を伸ばしていった。

62年、時の通産大臣らの要請で、名古屋の高野精密工業の再建に乗り出す。「一人もクビにしない」と約束して従業員の信頼を獲得。「リコー時計」と社名を変更し、半年後には33石ダイナミック・オートや19石ハミングカレンダーなどのヒット商品を生み出した。

その後、品質問題が発生したが、企業体制を刷新して再出発。新製品「リコー・ダイナミック・ワイド」は海外でも人気を得た。(86年、「リコーエレメックス」に社名変更)

64年、札幌市中島公園の一角に、超豪華ホテル「ホテル三愛」をオープン。しかし、リコーの再建などのために、わずか2年で手放すことになり、市村は従業員たちの前で男泣きに泣いた。その後、ホテル三愛は幾度か運営会社や名称を変えたが、三愛精神は創業の精神として今も受け継がれているという。

63年、日本初のリース会社「日本リース・インターナショナル」が誕生。「使用すれど所有せず」機械は



三愛石油羽田営業所開設式 (1952.10.27)
燃料タンク車が飛行機のところまで行って給油している様子を眺めているとき、水道のようにホースを引っ張ってきて給油すれば効率が上がるとひらめいた。この着想がやがてハイドラントシステムによる給油となる



明治記念館創立時の記念撮影 (左から5人目が市村) (1947.11.1)
戦後まもなく、明治神宮の再建に力を貸してほしいと要請を受けた市村は、結婚式場を思いつく。結婚相談から挙式・披露宴まで一切を斡旋するというスタイルが評判となり、大繁盛となった



トップでゴール!
三愛会合同運動会において(1947.6.1)
社内スポーツは社員同士の友好や結束を深める力となると考え、社内野球大会や合同運動会を開催。1968年11月、市村が社員の前に最後に姿を見せたのも、合同運動会の会場であった



母校北茂安小学校に講堂を寄贈 (1958.4.29)
故郷には苦難の思い出が満ちていた。人生の前半はそこから脱却するための戦いであった。しかし、老境に至って思い浮かぶのは懐かしい風景である。故郷のために何かしたいという感慨がわき上がってきた



大阪にて電子リコピー BS-1 発表会 (1965.8)
リコピー三愛グループの中核であるリコピーを無配としたため、世間の非難を浴びた。再建のための諸施策がとられ、その原動力となったのが電子リコピーの完成であった。そして、わずか2年半で復配を実現する



コカ・コーラ第1号が空輸便で届く (1963.5.4)
日本人はアメリカのまねが好きだから、きっとコーラも飲むようになる、と確信して事業を引き受けた



三愛ドリームセンターの模型の前に構想を練る (1960頃)
円筒形のビルの着想は、奈良法隆寺の五重塔から得た。建物そのものが斬新だったため、あらゆる設備が新たに考案された

終曲

市村にとって故郷佐賀は、たくさんの悔し涙を流した地であり、生きる力と勇気を与えてくれた地でもあり、終生忘れることはなかった。佐賀県体育館(現市村記念体育館)や母校北茂安小学校講堂の寄贈などは、故郷に恩返しをしたいという願いの表れの一つであった。

63年、銀座4丁目角に円筒ガラス張りの「三愛ドリームセンター」が誕生。深夜0時の開店披露宴が東京中の評判となった。2023年、老朽化のため建て替えることを発表。銀座にふさわしいランドマークを目指し、現在工事が進んでいる。

天下の回りものなどのキャッチフレーズも話題になった。

68年秋、体の不調を覚え、精密検査を受けたときには、すでに病状は絶望的なもので、余命3カ月と診断された。

「裸で生まれてきたから、裸で帰る」「遺産を世の中の役に立つ仕事の基金としたい」という市村の思いを具体化すべく、三愛会の役員たちが奔走した。「新技術開発財団(現市村清新技术財団)」設立の認可が下りたのは亡くなるわずか4日前のことだった。

12月16日、永眠。全力で走りきった68年の人生だった。

市村清新技術財団（旧市村邸）



大田区北馬込の高台に立つ白亜の洋館

1937年、37歳の市村は北馬込に居を構えました。眼下に見える細い道に面して旭光学（リコーの前身）の工場がありました。やがて、細い道は環状7号線に、工場は現在のリコーの基盤となりました。

54年に新築された自宅は、市村が好んだ柔らかな曲線が出窓やらせん階段をはじめ、そこここに生かされた設計となっています。

現在は、財団に寄贈され、財団本部となっています。

HP <https://www.sgkz.or.jp/>

■所在地：東京都大田区北馬込 1-26-10 TEL 03-3775-2021

三愛オブリ 羽田支社



ハイドラント給油システムを考案

羽田空港の滑走路の地下に航空燃料を供給するためのパイプラインを敷き、航空機に給油することができるハイドラントシステムの考案は市村によるものです。以来、ハイドラント施設は国内外の主要空港に採用されています。

三愛オブリはハイドラントシステムのノウハウを生かし、航空燃料取扱事業においてオピニオンリーダーの役割を果たしています。

HP <http://www.san-ai-obbli.com/>

■所在地：東京都大田区羽田空港 3-7-1 TEL 03-5757-0321

市村清ゆかりの地探訪

佐賀県の貧農の家に生まれながら、幾多の困難を乗り越えて、リコー三愛グループの礎を築いた創業者・市村清。その原動力となったのは卓抜たるアイデアとたゆまぬ実行力、そして故郷を愛する心でした。ゆかりの地を訪ね、その足跡に触れて、「人を愛し 国を愛し 勤めを愛す」の精神に徹して走り続けた市村の生きざまを感じてみてはいかがでしょう。



チビ清

- 北海道札幌市
 - 札幌パークホテル (旧ホテル三愛)
- 東京都中央区
 - 西銀座デパート
 - 築地本願寺
 - 三愛ドリームセンター (建て替え中)
- 東京都港区
 - 明治記念館
 - 市村清の墓所 (興国山 賢崇寺)
- 東京都大田区
 - 市村清新技術財団 (旧市村邸)
 - 三愛オブリ 羽田支社
 - 市村清銅像 (リコー本社内)
- 静岡県熱海市
 - 市村清新技術財団 植物研究園 (旧市村別荘「清恵荘」)
- 佐賀県みやき町
 - 市村記念公園 (生家跡)
 - 北茂安小学校 講堂
 - 千栗八幡宮
- 佐賀県佐賀市
 - 市村記念体育館 (旧佐賀県体育館)
 - サガテレビ
 - 茶室 清恵庵
 - 佐屋醤油
 - 楊柳亭
- 熊本県阿蘇郡
 - 瀬の本レストハウス (旧三愛レストハウス)
 - 瀬の本高原ホテル (旧三愛高原ホテル)
- 米国フロリダ州
 - 市村園 (イチムラ・ガーデン)

市村清銅像（リコー本社玄関前）



社員たちの募金で建立

1969年12月16日（市村清の一周忌）、リコー本社玄関前で、市村の銅像除幕式が行われ、生前親交のあった政財界、学界、芸能界の方々、近親者、グループ各社代表約100名が出席しました。

台座正面の「市村清像」は市村が最も敬愛した石坂泰三氏の揮毫によるもの。建立募金に応募した約14,600名の名簿は台座の中心部に埋蔵され、保存されています。

HP <https://jp.ricoh.com/>

■所在地：東京都大田区中馬込 1-3-6 TEL 03-3777-8111

西銀座デパート



ショッピングセンターの草分け

戦後、西銀座の名所であった数寄屋橋の堀は高速道路のために埋め立てられ、道路下は事務所や商店街になりました。商店街の真ん中にオープンした西銀座デパート（市村が初代社長）は、有楽町の新名所として、おしゃれな女性たちでにぎわいました。

現在、女性ファッション、三愛水着楽園、レストランなど多彩な店舗が揃い、当選数日本一といわれる宝くじ売り場もあります。

HP <https://www.nishiginza.co.jp/>

■所在地：東京都中央区銀座 4-1 先 TEL 03-3566-4111

市村清の墓所（興国山 賢崇寺）



佐賀鍋島藩歴代藩主の菩提寺

1968年12月16日、市村清は68歳の生涯を終えました。今、両親や幸恵夫人とともにここに眠っています。三愛会では毎年命日などに墓参を行っています。

賢崇寺は佐賀藩士をはじめ佐賀ゆかりの人々の墓が多くあります。市村がここを選んだのも、佐賀出身であり、祖父が佐賀藩士だったことによるものです。

■所在地：東京都港区元麻布 1-2-12 TEL 03-3451-2359

明治記念館



戦後まもなく手掛けた明治神宮の結婚式場

1947年、明治神宮の再建に力を貸してほしいと依頼された市村は、厳粛な形式を残す憲法記念館の建物を見ているうちに、結婚式場のアイデアがひらめきました。狙いは大成功で、その年の挙式数は295組を数え、翌年開設した結婚相談所には多くの若い男女が訪れました。その後、市村は経営から退きましたが、同館はさらに発展を続けて総挙式数は23万組を超え、2027年11月に開館80周年を迎えます。

HP <https://www.meijikinenkan.gr.jp/>

■所在地：東京都港区元赤坂 2-2-23 TEL 03-3403-1171

築地本願寺



合同葬儀が執り行われた寺院

1968年12月20日、市村のグループ合同葬儀が執り行われた浄土真宗本願寺派の寺院。葬儀には、政財界をはじめ文化・スポーツ、芸能関係者など生前交流のあった方たち、約7,000名が参列。広い境内に入りきれなかった参列者の列が歩道にまで続いていました。

当寺院は日本を代表する寺院の一つで、インドの古代仏教建築を模した本堂は国の重要文化財に指定されています。

HP <https://tsukijihongwanji.jp/>

■所在地：東京都中央区築地 3-15-1 TEL 0120-792-048

市村清新技術財団 植物研究園（旧市村別荘）



36歳のときにつくった熱海の別荘（清恵荘）

理化学興業の感光紙部長に就任したとき、市村の手元には代理店（吉村商会）を返上した大金がありました。預金して楽に生きていこうとすれば人生が怠惰になってしまう、と考えた市村は約12,000m²の土地を買って別荘を建てたのです。（夫婦の名前から「清恵荘」と命名）幸恵夫人の死後、財団に遺贈され、植物研究のための施設として開園しました。

HP <https://www.sgkz.or.jp/outline/brg/>

■所在地：静岡県熱海市相原町 11-8 TEL 0557-81-2656

市村記念体育館（旧佐賀県体育館）



郷土の青少年スポーツ振興のために

1963年、故郷佐賀県の青少年スポーツ振興のためにと、市村が私財を投じて寄贈した体育館。落成式に出席した市村は、館内を圧する拍手と歓声に迎えられて、「故郷に残し得る一番大きなものになったかもしれぬ」と目頭が熱くなるのでした。設計は、坂倉準三氏。

王冠のようにギザギザのある特徴的な外観をしているこの体育館は、2023年、DOCOMOMO JAPAN 選定「日本におけるモダン・ムーブメントの建築」に認定されました。

■所在地：佐賀県佐賀市城内 2-1-35

札幌パークホテル（旧ホテル三愛）



冬季オリンピックに向けて建設された国際級ホテル

札幌冬季オリンピック開催が決まり、札幌にホテルを造ってほしいという要請を受けて、1964年に創設した国際級の豪華ホテル。リコーの不振などにより2年足らずで手放しましたが、三愛精神は創業の精神として、しっかりと受け継がれてきました。

現在は、アクセスの良さ、温かなサービス、自然豊かなロケーションが高い評価を受け、札幌有数のシティホテルとなっています。

HP <https://park1964.com/>

■所在地：北海道札幌市中央区南 10 条西 3 丁目 1-1 TEL 011-511-3131

肥前一宮 千栗八幡宮



恩師が宮司を務めた郷土の神社

神亀元（724）年創建の神社。佐賀中学を中退した市村が通っていた塾の塾長・岡泰雄が晩年宮司を務めました。

1940年、市村の多額の匿名寄進や地元有志の寄進により社殿が改造され、佐賀県唯一の格式の高い神社（国幣小社）へ昇格しました。

2024（令和6）年に創建1300年の式年を迎え、これを記念して社殿の一部を修繕し内装も整えました。

HP <https://chirikuhachiman.sakura.ne.jp/>

■所在地：佐賀県三養基郡みやき町白壁 2415 TEL 0942-89-5566

市村記念公園（生家跡）



佐賀県の生家跡地を公園として寄贈

佐賀県の東端に位置する三養基郡みやき町（旧北茂安村）、ここが市村清の生誕地です。明治維新まで旧鍋島藩の領地で、市村の祖父は佐賀鍋島藩士、父も武士の末裔でした。市村自身、佐賀の士族の資質を受け継いでおり、それが人生の大きな力となったと感じていました。

2001年、市村清生誕100年を記念して、生家のあった場所を市村記念公園として町に寄贈。市村の胸像も建てられました。現在は地元の人たちが管理しています。

■所在地：佐賀県三養基郡みやき町白壁（市原）^{いちばる}

楊柳亭



郷土の老舗料亭

明治15（1882）年創業、創業から百有余年と伝統と格式高い老舗料亭。市村が最初に訪ねたのは保険の勧誘のためでしたが、そのときは十分に自分の気持ちが定まらず信念を持って対応できなかったことを悔やみました。その後、事業家として成功した市村は、佐賀へ帰郷した折には必ず立ち寄り、馴染みとなりました。調度品などからも歴史の趣が感じられます。

HP <https://yoryutei.com/>

■所在地：佐賀県佐賀市松原 3-2-37 TEL 0952-23-2138

佐賀県みやき町立北茂安小学校 講堂



故郷に恩返しをしたいと母校に寄贈

市村は故郷を愛していました。苦難の思い出に満ちた地でしたが、人生の出発点でもあったからです。この講堂は故郷への恩返しの気持ちから、1958年寄贈されました。それから30年余りが過ぎ、建物の老朽化が進んだため、91年に建て替え。新講堂には、市村清コーナーが設けられ、市村の業績を児童たちに伝えています。

現在、児童数は約600名、元気いっぱい学んでいます。

HP <https://www.education.saga.jp/hp/kitashigeyasu-e/>

■所在地：佐賀県三養基郡みやき町大字東尾 420 TEL 0942-89-2123

瀬の本レストハウス (旧三愛レストハウス)
瀬の本高原ホテル (旧三愛高原ホテル)



雄大な阿蘇五岳や九重連山を一望

1963年、やまなみハイウェイ（九州横断道路）の建設が決まり、当時の南小国村村長から土地開発の依頼を受けた市村は、65年、瀬の本高原に三愛レストハウスを完成。さらに、83年には三愛高原ホテルを開業しました。（両施設とも、2019年10月に社名変更）

瀬の本レストハウス

HP <https://rest.senomoto.com/>

■所在地：熊本県阿蘇郡南小国町大字満願寺 5621-7 TEL 0967-44-0011

瀬の本高原ホテル

HP <https://hotel.senomoto.com/>

■所在地：熊本県阿蘇郡南小国町大字満願寺 5644 TEL 050-1721-9577



市村園 (イチムラ・ガーデン)



米国マイアミ市に寄贈した日本庭園

1957年、米国のカメラショーに出席した市村は、帰途立ち寄ったマイアミ市に日本の桜の寄贈を申し出ました（翌年、オーキッドに変更）。さらに日本庭園を造らせ、日米親善の一役を果たしたのです。

しかし、度重なるハリケーンなどにより甚大な被害を受け、その後、修復工事を経て、現在はマイアミ市宮庭園「市村園」として公開。季節ごとのイベントなども開催されています。

HP <https://friendsofjapanesegarden.com/>

■所在地：1101 MacArthur Causeway, Watson Island, Miami, FL 33139 TEL +1 786-385-7609

サガテレビ



佐賀県唯一の民間放送局

佐賀県に民間放送局を開局するために、市村は地元の有志とともに奮闘し、1967年、佐賀放送を設立しました。翌年3月に会社登記をし、初代会長に市村が就任しました。同年5月に、サガテレビと社名変更。69年4月、本放送を開始し、2024年、開局55周年を迎えました。

現在、フジテレビネットワークの一局として佐賀県を中心にホットな情報を配信しています。

HP <https://www.sagatv.co.jp/>

■所在地：佐賀県佐賀市内 1-6-10 TEL 0952-23-9111

茶室 清恵庵



旧佐嘉城南堀に面した閑静な茶室

市村の遺志により、幸恵夫人が1973年に佐賀県に寄贈した茶室。佐賀県の施設として茶会や茶道の研修会などに利用されています。

敷地面積は230m²、建築面積70m²、建物は4畳半の茶室（小間）と7畳半の広間兼水屋、寄付、台所、トイレで構成されています。設計は茶室建築の第一人者である堀口捨己氏によるもので、このほど国の登録有形文化財に登録されることになりました。

HP <https://saga-museum.jp/museum/facility/rent/teahouse.html>

■所在地：佐賀県佐賀市内 1-15-23 (佐賀県立博物館敷地内) TEL 0952-24-3947

佐星醤油



理研感光紙九州総代理店を兼業

創業明治30（1897）年の老舗醤油醸造元。4代目・吉村吉郎氏は醤油醸造のほか、富国徴兵保険の代理店と理研感光紙の九州総代理店（吉村商会）を兼業。ここが市村と理研の最初の出合いの場でした。

その後、理研感光紙の九州総代理店の権利を譲り受けた市村は、その販売で力を発揮し、理研の大河内博士から認められることになりました。リコーの原点はここからです。

HP <http://www.saboshi.co.jp/>

■所在地：佐賀県佐賀市唐人 1-1-16 TEL 0952-23-4624

リコー三愛グループの歩み

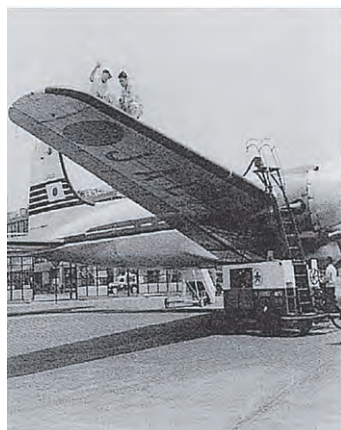
リコー三愛グループの前身、自蹊会の発足から80有余年。市村清が興した事業は世代を超え脈々と受け継がれ現在に至ります。リコー三愛グループの軌跡を紹介します。



① 理研感光紙設立 1936
理研感光紙から理研光学工業へと社名を改めた頃の銀座の本社 (1938)



③ 「三愛精神」発表 1946
『三愛』No.1に掲載



④ 三愛石油設立 1952
ハイドラント式給油施設による航空機給油業務を開始 (1955)



② 三愛商事設立 1945
1946年、銀座に誕生した三愛の店舗は連日多くの来店客で賑わった



⑤ 西銀座デパート開店 1958
数寄屋橋の掘が埋め立てられ、開通した高速道路下に日本初のショッピングセンターとして開店



⑥ 高野精密工業の再建に着手、新社名はリコー時計 1962
岡崎工場内に量水器工場が新設された



⑦ ホテル三愛開業 1964
リコー再建途上の1966年、売却された (現札幌パークホテル)

西暦年号 リコー三愛グループおよびグループ各社の出来事

- 1936 ● 36・理化学興業(株)から独立し、理研感光紙(株)として設立。(38年、理研光学工業(株)に社名変更) ①
- 1945 ● 45・三愛商事(株)設立。48年、(株)三愛に改組、設立 ②
- 46・自蹊会を三愛会に改称(三愛会創立)。初代会長・市村清
- 47・市村、明治神宮からの再建要請で明治記念館を開館
- 44・関連会社7社からなる自蹊会発足。グループ機関誌『自蹊会会報』発行
- 1952 ● 52・三愛石油(株)設立。石油製品の販売を開始。東京国際空港内に羽田営業所を開設し、航空機への給油事業に着手 ④
- 53・三愛精工(株)設立(63年、リコー計器(株)に社名変更)
- 54・三愛会合同運動会を開催(大田区馬込第三小学校)
- 1955 ● 55・三愛石油、ハイドラント式給油施設による航空機給油業務を開始
- 57・理研光学工業、わが国初のカメラの量産体制を確立。大河内記念生産賞受賞
- 58・理研光学工業健康保険組合設立(63年、リコー健康保険組合に改称)
- 60・飲料の製造・販売会社、日米飲料(株)を設立(63年、日米コカ・コーラボトリング(株)に社名変更) ⑤
- 61・米国マイアミ市に「イチムラ・ガーデン」を寄贈
- 62・日米飲料、ザ・コカ・コーラカンパニーおよび日本コカ・コーラ(株)と契約を締結。販売開始
- 60・市村、母校の佐賀県北茂安小学校に講堂を寄贈



⑫日米コカ・コーラボトリング、北九州コカ・コーラボトリングに社名変更 1973

社名変更に先立ち、同年4月、門司工場を開設。盛大な竣工式典が挙行された



⑬リコー、事務機業界初のデミング賞を受賞 1975

2代目社長館林三喜男の強い意志で品質管理向上を図った成果が現れた



⑩新技術開発財団設立を内閣総理大臣認可 1968
後に旧市村邸が財団事務所として使用される



⑪リコー三愛グループ、日本万国博覧会(大阪)にリコー館を出展 1970

大きな目玉のバルーンが異彩を放ち、万博のお祭りムードの盛り上げに一役買った



⑧日米コカ・コーラボトリングの本社、福岡工場開設 1963

深夜、歓声の中で福岡工場からコカ・コーラ第1号製品が完成した



⑨三愛レストハウス完成披露・開業 1965

熊本県国立公園阿蘇山の一角、瀬の本高原に位置し、九州横断道路の中心にある

1975

75・リコー、事務機業界初のデミング賞実施賞を受賞 ⑬

・リコー光学(株)設立(現 株オプトル)
・リコー健康保険組合、リコー三愛グループ健康保険組合に改称
・愛の手委員会設置。愛の手募金活動および贈呈開始

1970

70・リコー三愛グループ、日本万国博覧会(大阪)にリコー館を出展 ⑪

73・日米コカ・コーラボトリング、北九州コカ・コーラボトリング(株)に社名変更 ⑫

69・新技術開発財団・第1回市村賞贈呈式(ホテルオークラ)
・三愛石油、東京都日野市に研究所を設置、泡消火剤、防かび剤、防錆剤の開発・製造・販売に着手

68・新技術開発財団設立を内閣総理大臣認可(市村の個人財産約30億円を寄付)。(現 市村清新技術財団) ⑩

67・東北リコー(株)設立(現 エトリア(株))
・日米コカ・コーラボトリング、鳥栖工場を開設

66・九州三愛観光(株)設立(現 瀬の本高原リゾート(株))
・リコー時計、恵那工場増築竣工

65・第1回リコー三愛グループ合同入社式開催
・三愛レストハウス完成披露・開業(熊本県阿蘇郡) ⑨

1965

64・三愛運輸(株)設立(現 SBSネクスード(株))
・市村遺児育英会規定制定

63・三愛ドリームセンター落成
・理研光学工業、(株)リコーに社名変更

62・(株)日本リース・インターナショナル設立(67年、(株)日本リースに社名変更)
・市村、佐賀県に佐賀県体育館(現 市村記念体育館)を寄贈

61・日米コカ・コーラボトリングの本社・福岡工場を開設 ⑧

60・高野精密工業(株)の再建に着手、社名をリコー時計(株)に変更(株)ホテル三愛設立(札幌市)。64年、三愛観光(株)に社名変更、同年、ホテル三愛開業 ⑦

59・市村、全国僻地小学校にリコーシンクロファクスを寄贈

58・三愛ドリームセンター落成

57・理研光学工業、(株)リコーに社名変更

56・(株)日本リース・インターナショナル設立(67年、(株)日本リースに社名変更)

55・市村、佐賀県に佐賀県体育館(現 市村記念体育館)を寄贈

54・日米コカ・コーラボトリングの本社・福岡工場を開設 ⑧

53・三愛運輸(株)設立(現 SBSネクスード(株))

52・市村遺児育英会規定制定

51・三愛レストハウス完成披露・開業(熊本県阿蘇郡) ⑨

50・東北リコー(株)設立(現 エトリア(株))

49・日米コカ・コーラボトリング、鳥栖工場を開設

48・九州三愛観光(株)設立(現 瀬の本高原リゾート(株))

47・リコー時計、恵那工場増築竣工

46・新技術開発財団設立を内閣総理大臣認可(市村の個人財産約30億円を寄付)。(現 市村清新技術財団) ⑩

45・新技術開発財団・第1回市村賞贈呈式(ホテルオークラ)

44・三愛石油、東京都日野市に研究所を設置、泡消火剤、防かび剤、防錆剤の開発・製造・販売に着手

43・三愛ドリームセンター落成

42・理研光学工業、(株)リコーに社名変更

41・(株)日本リース・インターナショナル設立(67年、(株)日本リースに社名変更)

40・市村、佐賀県に佐賀県体育館(現 市村記念体育館)を寄贈

39・日米コカ・コーラボトリングの本社・福岡工場を開設 ⑧

38・三愛運輸(株)設立(現 SBSネクスード(株))

37・市村遺児育英会規定制定

36・三愛レストハウス完成披露・開業(熊本県阿蘇郡) ⑨

35・東北リコー(株)設立(現 エトリア(株))

34・日米コカ・コーラボトリング、鳥栖工場を開設

33・九州三愛観光(株)設立(現 瀬の本高原リゾート(株))

32・リコー時計、恵那工場増築竣工

31・新技術開発財団設立を内閣総理大臣認可(市村の個人財産約30億円を寄付)。(現 市村清新技術財団) ⑩

30・新技術開発財団・第1回市村賞贈呈式(ホテルオークラ)

29・三愛石油、東京都日野市に研究所を設置、泡消火剤、防かび剤、防錆剤の開発・製造・販売に着手

28・三愛ドリームセンター落成

27・理研光学工業、(株)リコーに社名変更

26・(株)日本リース・インターナショナル設立(67年、(株)日本リースに社名変更)

25・市村、佐賀県に佐賀県体育館(現 市村記念体育館)を寄贈

24・日米コカ・コーラボトリングの本社・福岡工場を開設 ⑧

23・三愛運輸(株)設立(現 SBSネクスード(株))

22・市村遺児育英会規定制定

21・三愛レストハウス完成披露・開業(熊本県阿蘇郡) ⑨

20・東北リコー(株)設立(現 エトリア(株))

19・日米コカ・コーラボトリング、鳥栖工場を開設

18・九州三愛観光(株)設立(現 瀬の本高原リゾート(株))

17・リコー時計、恵那工場増築竣工

16・新技術開発財団設立を内閣総理大臣認可(市村の個人財産約30億円を寄付)。(現 市村清新技術財団) ⑩

15・新技術開発財団・第1回市村賞贈呈式(ホテルオークラ)

14・三愛石油、東京都日野市に研究所を設置、泡消火剤、防かび剤、防錆剤の開発・製造・販売に着手

13・三愛ドリームセンター落成

12・理研光学工業、(株)リコーに社名変更

11・(株)日本リース・インターナショナル設立(67年、(株)日本リースに社名変更)

10・市村、佐賀県に佐賀県体育館(現 市村記念体育館)を寄贈

9・日米コカ・コーラボトリングの本社・福岡工場を開設 ⑧

8・三愛運輸(株)設立(現 SBSネクスード(株))

7・市村遺児育英会規定制定

6・三愛レストハウス完成披露・開業(熊本県阿蘇郡) ⑨

5・東北リコー(株)設立(現 エトリア(株))

4・日米コカ・コーラボトリング、鳥栖工場を開設

3・九州三愛観光(株)設立(現 瀬の本高原リゾート(株))

2・リコー時計、恵那工場増築竣工

1・新技術開発財団設立を内閣総理大臣認可(市村の個人財産約30億円を寄付)。(現 市村清新技術財団) ⑩



⑬ 三愛石油、キグナス石油の全株式を取得 2004

業容の拡大とともに、長期にわたる石油製品購入権獲得による仕入れの安定化およびグループ規模での販売ネットワークの拡大を図る



⑰ 「市村自然塾 関東」入塾式 2002

市村清生誕 100 周年記念として“生きる力を大地から学ぶ”をコンセプトに、神奈川県に開塾



⑱ 「市村自然塾 九州」入塾式 2003

「市村自然塾 関東」に続き、佐賀県に開塾



⑭ 三愛高原ホテルの営業開始 1983

三愛観光、熊本県阿蘇・瀬の本高原に三愛レストハウスに続いてホテルをオープンした



⑮ 新技術開発財団、熱海に植物研究園開園 1991

市村の別荘「清恵荘」が幸恵夫人の遺志により寄贈され、植物園として研究者に開放



⑳ 三愛石油、協定森林（現 三愛オブリの森）をスタート 2008

高知県本山町において「三愛オブリの森」体験型環境研修を実施（2023）



⑯ 三愛石油、羽田空港における新航空機給油施設供用開始 1996

- 2010
 - 10・リコー経済社会研究所を設立
 - ・日本国内の販売会社7社を統合し、リコージャパン(株)を設立
 - ・三愛石油、羽田空港本格国際化に伴う工事完了、運用開始^⑳
 - 13・コカ・コーラウエスト、南九州コカ・コーラボトリング(株)を
- 2005
 - 09・コカ・コーラウエストホールディングス、コカ・コーラウエストジャパン、近畿コカ・コーラボトリングおよび三笠コカ・コーラボトリングを吸収合併し、コカ・コーラウエスト(株)に社名変更
 - 08・三愛石油、国際油化(株)の全株式を三井物産(株)より取得
 - ・三愛石油、高知県および高知県本山町と協定森林をスタート(現 三愛オブリの森)^㉑
 - 06・三愛ドリームセンターに、リコーの広告塔が点灯
 - 05・三愛石油、天然ガス供給事業開始
 - 04・三愛石油、石油元売会社・キグナス石油(株)の全株式を取得^⑲
 - 03・市村自然塾 九州が開塾^⑱
 - 02・市村自然塾 関東が開塾^⑰
 - ・三愛石油、コーポレート・ブランド「Obbri」を導入
- 2002
 - 99・北九州コカ・コーラボトリング、山陽コカ・コーラボトリング(株)と合併し、コカ・コーラウエストジャパン(株)に社名変更
- 1996
 - 96・三愛石油、羽田空港における新航空機給油施設供用開始^⑯
 - ・三愛会、創立50年
- 1991
 - 91・新技術開発財団、熱海に植物研究園開園^⑮
 - ・市村の母校・北茂安小学校に市村清展示コーナー誕生
- 1983
 - 83・三愛高原ホテルの営業開始^⑭
 - 84・リコークレジット、リコーリース(株)に社名変更
 - 86・リコー時計、リコーエレメックス(株)に社名変更
- 1975
 - 75・第1回カルチャーセンター開催(三愛会とリコー厚生年金基金共催)
 - ・三愛新書『人間と文化』シリーズ第1集創刊
 - 76・リコークレジット(株)設立
 - 77・リコー、業界で初めてOA(オフィス・オートメーション)を提唱
 - 79・東北リコー、東北の企業として初のデミング賞を受賞

リコーグループ



株式会社リコー

代表取締役 社長執行役員・CEO 大山 晃

リコーグループの創業者・市村清が提唱した「三愛精神―人を愛し国を愛し勤めを愛す―」という創業の精神は、リコーグループの全社員が仕事を行う上での原点となる考え方として、今も大切に受け継がれています。

この三愛精神とともに私たちが変わらぬ大切にしていることが、お客様の「はたらく」に寄り添い続けることです。はたらく環境やはたらく人に求められる価値は大きく変化しています。こうした変化のなかでリコーグループは、はたらく人の生み出す力（創造力）の発揮を支えるべく、変革を推し進めてきました。

世界140万社の顧客基盤、顧客接点、独自の自社技術というリコーグループの強みを活かし、デジタルの力でお客様の生産性向上や、その先にある創造力の発揮を支え続けます。

2023年、リコーグループは企業理念であるリコーウェイの使命と目指す姿に「はたらく」に「はたらく」を掲げました。はたらく人の充足感、達成感、自己実現の実感につながる「はたらく」の変革を世の中にお届けすることで、働きがいと経済成長が両立する持続可能な社会づくりに貢献します。その実現のためには、社員自身がお客様へのお役立ちを通じて「はたらくの喜び」を感じることが不可欠です。それがまたお客様にとってのはたらくの喜びにつながり、私たちの喜びへと環流する、そうした好循環をつくり出していくと考えるからです。

これからもお客様に寄り添い、社会から愛され信頼される会社に向けて、成長の道を歩んでまいります。

2026年はリコーが創業90周年を迎えるとともに、三愛会としても設立から80周年となる記念すべき年です。三愛精神にあらためて想いを馳せ、会員企業の皆さまとともに発展していけるよう尽力してまいります。



株式会社リコー

〒143-8555 東京都大田区中馬込 1-3-6

TEL 03-3777-8111

URL <https://jp.ricoh.com>

【事業内容】 デジタルサービス、デジタルプロダクツ、グラフィックコミュニケーションズ、インダストリアルソリューションズ、およびその他において、開発、生産、販売、サービスの提供

■ **リコージャパン株式会社**

〒105-8503 東京都港区芝 3-8-2 芝公園ファーストビル
TEL 050-3534-0800
URL <https://jp.ricoh.com/companies/ricoh-japan>

【事業内容】さまざまな業種におけるお客様の経営課題の解決を支援する各種ソリューションの提供

■ **リコーインダストリー株式会社**

〒243-0298 神奈川県厚木市下荻野 1005
TEL 046-243-1210
URL <https://www.industry.ricoh.co.jp/>

【事業内容】事務機器、光学機器、印刷機器、機械装置等とこれらの消耗品の製造ならびに販売など

■ **エトリアマニュファクチャリングジャパン株式会社**

〒410-0007 静岡県沼津市西沢田 146-1
TEL 050-3814-5442
URL <https://emjp.etria.global/>

【事業内容】複合機・プリンター、周辺機及びその他消耗品等の生産・再生に関わる事業

■ **リコー PFU コンピューティング株式会社**

〒243-0460 神奈川県海老名市泉 2-7-1
TEL 050-3817-3333
URL <https://rpc.ricoh.com/>

【事業内容】組込みコンピューティング事業、エッジデバイス事業、EMS 事業、フォント事業など

■ **リコーイメージング株式会社**

〒224-0035 神奈川県横浜市都筑区新栄町 16-1
URL <https://www.ricoh-imaging.co.jp/japan/>

【事業内容】カメラ、その他光学機器の製造・販売及びサービスの提供

■ **リコーデジタルペインティング株式会社**

〒194-0212 東京都町田市小山町 800-5
TEL 042-751-6110
URL <https://www.ricoh-digitalpainting.com>

【事業内容】プリンター、インク/塗料の開発・製造・販売

■ **リコーエレメックス株式会社**

〒444-8586 愛知県岡崎市井田町 3-69
TEL 0564-23-5111
URL <https://www.ricohelemex.co.jp/>

【事業内容】精密加工部品、産業機器、OA 機器関連等の製造・販売

■ **リコーリース株式会社**

〒105-7119 東京都港区東新橋 1-5-2
TEL 03-6204-0700
URL <https://www.r-lease.co.jp/>

【事業内容】リース&ファイナンス事業、サービス事業、インベストメント事業

■ **迫リコー株式会社**

〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字北散田 86
TEL 0220-22-4431
URL <https://www.hasama.ricoh.co.jp/>

【事業内容】OA 機器製造、精密金属部品の工法開発から製造

■ **エトリア株式会社**

〒220-0011 神奈川県横浜市西区高島 1-2-5 横濱ゲートタワー
TEL 050-3814-7000
URL <https://etria.global/>

【事業内容】事務機器・産業機器・光学機器、およびその周辺機器・消耗品等の開発・生産・販売等

■ **リコークリエイティブサービス株式会社**

〒143-8555 東京都大田区中馬込 1-3-6
TEL 03-3777-2685
URL <https://www.rcs.ricoh.co.jp/>

【事業内容】事業所運営事業、厚生支援事業、ビジネス支援事業など

■ **リコー IT ソリューションズ株式会社**

〒224-0035 神奈川県横浜市都筑区新栄町 16-1
TEL 050-3817-3900
URL <https://www.jrits.co.jp/>

【事業内容】ソリューションサービス事業、リコーグループ社内 IT システム事業

■ **リコーテクノリサーチ株式会社**

〒243-0460 神奈川県海老名市泉 2-7-1
TEL 046-292-5372

【事業内容】特許調査・外国出願（米欧中韓の翻訳）・特許管理

■ **リコーエスポアール株式会社**

〒243-0298 神奈川県厚木市下荻野 1005
TEL 046-243-1590
URL <https://jp.ricoh.com/companies/ricoh-espoir>

【事業内容】アフターサービス用部品の包装、梱包業務、部品の組み立て、リサイクル業務など

■ **リコーエレメックスエーティー株式会社**

〒509-7205 岐阜県恵那市長島町中野 1218-2
TEL 0573-25-8524
URL https://www.ricohelemex.co.jp/about/group/at_outline.html

【事業内容】精密加工部品等の製造・販売

■ **テクノレント株式会社**

〒105-7119 東京都港区東新橋 1-5-2
TEL 03-6863-2700
URL <https://www.techno.co.jp/>

【事業内容】各種計測器、IT 機器のレンタル、計測・機器点検等の受託技術サービス、各種機器の販売など

三愛オブリグループ



三愛オブリ株式会社
代表取締役社長 社長執行役員 隼田 洋

経営理念「三愛精神」のもと、
2030年度の「あるべき姿」に向けた、
事業ポートフォリオへの進化を実現して
まいります。

三愛オブリは1952年、羽田空港における給油事業からスタートし、成長と発展を続ける国内の需要に応え、石油、LPガス、化学品、天然ガス、潤滑油などの分野へ事業を広げてまいりました。その原点には、創業者である市村清が掲げた「人を愛し国を愛し勤めを愛す」という不変の価値観「三愛精神」があり、事業を通じて社会に貢献していくことが当社の使命であると確信しています。

当社グループは2030年度までに、既存事業の変革と積極的な成長投資による低炭素・循環型社会に対応した事業ポートフォリオの進化を目指しています。そのためには、各事業のさらなる成長と経営基盤の強化が不可欠ですので、まずは、現在の事業分野の関連領域を着実に拡大してまいります。加えて、次世代の柱となる新規事業の構築に向けて、ビジネスチャンスを見逃すことなく、積極果敢な挑戦を継続いたします。

また、この事業戦略を加速させるために必要となる、サステナビリティ経営の実践による経営基盤の強化として、人的資本の高度化、DXの推進、低炭素・循環型社会への貢献にも取り組んでいます。当社グループは、これからも経営理念である「三愛精神」のもと、持続可能な社会の発展に尽力するとともに、2030年度の「あるべき姿」に向けた、事業ポートフォリオへの進化を実現してまいります。



■ 三愛オブリ株式会社

〒100-8154 東京都千代田区大手町 2-3-2
大手町プレイス イーストタワー

TEL 03-6880-3100

URL <https://www.san-ai-obbli.com>

【事業内容】石油製品およびLPガス等の販売、航空燃料取扱業

Obbli 三愛オブリグループ

■ キグナス石油株式会社

〒 100-0004 東京都千代田区大手町 2-3-2
大手町プレイスイーストタワー
TEL 03-5204-1600
URL <https://kygnus.jp/>

【事業内容】 石油類、石油化学製品の売買

■ 三愛リテールサービス株式会社

〒 140-0011 東京都品川区東大井 5-22-5
オブリ・ユニビル
TEL 03-6810-3900
URL <https://san-ai-rs.com/>

【事業内容】 石油製品等の販売

■ 三愛オブリテック株式会社

〒 140-0011 東京都品川区東大井 5-22-5
オブリ・ユニビル
TEL 03-6864-1850
URL <https://www.san-ai-obblitech.com/>

【事業内容】 CT 事業、建設事業

■ 三愛オブリガスサービス中国株式会社

〒 710-0016 岡山県倉敷市中庄 2230-7
TEL 086-461-0164

【事業内容】 LP ガスの配送・充填

■ 三愛オブリガスサービス九州株式会社

〒 812-0039 福岡県福岡市博多区冷泉町 5-32
オーシャン博多ビル
TEL 092-291-1750

【事業内容】 LP ガスの配送・充填

■ 株式会社トスプロ

〒 841-0066 佐賀県鳥栖市儀徳町 2927-1
TEL 0942-83-3059
URL <https://www.tosu-pro.co.jp/>

【事業内容】 LP ガス・ガス器具等の小売販売

■ 佐賀ガス株式会社

〒 849-0914 佐賀県佐賀市兵庫町大字西淵 1996
TEL 0952-30-6161
URL <https://www.saga-gas.co.jp/>

【事業内容】 都市ガス供給事業、ガス器具等の小売販売

■ 三愛オブリガス東日本株式会社

〒 140-0011 東京都品川区東大井 5-22-5
オブリ・ユニビル
TEL 03-6864-1833
URL <https://higashinihon.san-ai-obbligas.co.jp/>

【事業内容】 LP ガス・ガス器具等卸売・小売販売など

■ 三愛オブリガス西日本株式会社

〒 812-0039 福岡県福岡市博多区冷泉町 5-32
オーシャン博多ビル
TEL 092-291-1731
URL <https://kyushu.san-ai-obbligas.co.jp/>

【事業内容】 LP ガス・ガス器具等卸売・小売販売など

■ 三愛オブリガス三神株式会社

〒 842-0003 佐賀県神埼市神埼町本堀 3003-6
TEL 0952-53-1221
URL <https://sanshin34.com/>

【事業内容】 LP ガス・ガス器具等の小売販売、建設業

■ 三愛オブリカスタマーサービス株式会社

〒 780-0870 高知県高知市本町 4-2-52
オカバ高知ビル
TEL 088-888-7200

【事業内容】 石油関連製品等の受発注業

サガテレビ

SAGATV



サガテレビは、1969年4月に開局した佐賀県で唯一の民間テレビ放送局です。ローカル情報やニュースの放送・配信をはじめ、地元のスポーツ、祭り、イベント等の番組制作などにも積極的に取り組んでいます。

東京のフジテレビをキーステーションとしたフジネットワーク（全国28局）の一局として、佐賀県を中心としたホットな情報を全国に発信しています。

グループ会社の力を結集し、テレビを越えたビジネスを展開して地域と共に発展する地域商社を目指しています。



株式会社サガテレビ

〒840-8558 佐賀県佐賀市城内 1-6-10
TEL 0952-23-9111
URL <https://www.sagatv.co.jp/>

【事業内容】放送法に基づく放送事業、メディア事業、その他の放送関連事業

西銀座デパート

NISHIGINZA



西銀座デパートは1958年10月に数寄屋橋の外堀跡に建設された東京高速道路高架下に開業した先駆的のショッピングセンターです。アパレルを中心に、日本の売上を誇る「サンリオニシギンザ」や「スリーコインズプラス」などキャラクター&ライフスタイル雑貨、圧倒的な規模感を誇るランジェリー、一年を通じて買えることができる水着売場など多彩な約60店が並び、高感度な女性たちが集まる商業施設として親しまれています。

当館の屋上部分にあった高速道路は「ルーフパークプロジェクト」として歩行者中心の公共空間へ再生が進められます。



株式会社西銀座デパート

〒104-0061 東京都中央区銀座 4-1 先
TEL03-3566-4008
URL <https://www.nishiginza.co.jp/>

【事業内容】不動産賃貸業および商業施設運営管理



エフエム佐賀

エフエム佐賀は、佐賀県を放送対象地域とする超短波放送（FMラジオ放送）事業を行っている特定地上基幹放送事業者で、1992年4月に開局。FM東京をキー局とする38局ネットワーク（全国FM放送協議会（JFN）の一員として、日々放送活動を続けてきました。また、2000年には鳥栖中継局を開局し、エリアの充実や24時間放送を開始しています。

エフエム佐賀はこれからも、お客さまのご期待にお応えするワンストップ・ソリューションメディアとして活動してまいります。

株式会社エフエム佐賀

〒840-0023 佐賀県佐賀市本庄町大字袋 286-5

サガンスクエアビル

TEL 0952-25-7790

URL <https://www.fmsga.co.jp/>

【事業内容】放送法に基づく超短波放送事業、その他の放送関連事業



瀬の本高原リゾート

瀬の本高原リゾートは、阿蘇くじゅう国立公園の一角にある瀬の本高原に位置し、半世紀以上にわたり、レストハウス、ホテルを中心とした観光事業を営んでまいりました。

2019年4月、三愛観光(株)から瀬の本高原リゾート(株)に社名変更。さらに三愛高原ホテルは「瀬の本高原ホテル」に、三愛レストハウスは「瀬の本レストハウス」にそれぞれ屋号を変更して、新たなスタートを切りました。

これからも阿蘇地域の観光発展に向けて邁進してまいります。

瀬の本高原リゾート株式会社

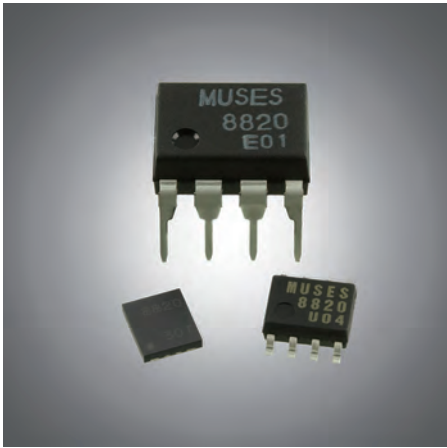
〒869-2402 熊本県阿蘇郡南小国町満願寺 5621-7

TEL 0967-44-0513

URL <https://senomoto.com>

【事業内容】観光ホテル、ドライブイン等の運営




日清紡マイクロデバイス


当社は2014年、リコーからリコー電子デバイス(株)となり、アナログ半導体ビジネスを中心に展開してまいりました。18年には日清紡ホールディングス傘下となり、22年1月、リコー電子デバイス(株)と新日本無線(株)が統合し、日清紡マイクロデバイス(株)としてスタートしました。

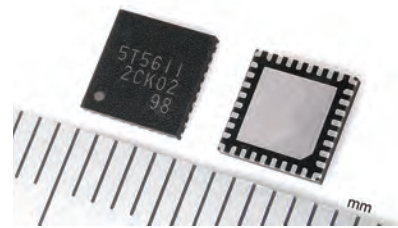
これからも、アナログ技術を強みとした電子デバイスとマイクロ波製品を通じて、つながる社会の発展に貢献し、世界中の顧客から期待される価値と存在感のあるアナログソリューションプロバイダを目指します。

日清紡マイクロデバイス

日清紡マイクロデバイス株式会社

本社 〒103-8510 東京都中央区日本橋横山町3番10号
TEL 03-5642-8222
池田事業所 〒563-8501 大阪府池田市姫室町13-1
TEL 072-748-6266
URL <https://www.nisshinbo-microdevices.co.jp/>

【事業内容】電子デバイス製品・マイクロ波製品の設計および製造・販売



SBS ネクサード


1964年2月、リコーの精密機器輸送を手掛けるメーカー系物流会社として誕生して以来、総合3PL事業者として発展し続けてまいりました。

2018年8月からはSBSグループに参入し、国内外100拠点以上を有する総合グローバルロジステイクス企業として活動しています。また、2026年1月1日より、「SBSネクサード株式会社」に社名変更いたしました。

長年培ってきた技術・ノウハウとIT・LT (Logistics Technology) を駆使し、体制の強化等も積極的に継続し、お客様の信頼にグローバル視点で確実にお応えし続ける物流のプロ集団を目指してまいります。

SBSネクサード

SBS ネクサード株式会社

〒160-6125 東京都新宿区西新宿8-17-1
住友不動産新宿グランドタワー 25階
TEL 03-6772-8202
URL <https://www.sbs-nextthird.co.jp/>

【事業内容】国内物流、国際物流に関するトータルソリューション事業



SBS 三愛ロジスティクス



1977年の設立以来、リコーグループのサプライチェーンを支えてきました。2020年4月にSBSリコーロジスティクス（現社名：SBSネクサード）の国内6社が統合し、SBS三愛ロジスティクス㈱として生まれ変わりました。

物流ソリューションの事業領域は調達・生産・販売・回収物流まで広範にわたります。一つ数グラムの電子部品から数百キロに及ぶ大型複写機まで、多種多様な製品の物流管理を受託してきたことで、あらゆる物流実務のノウハウを蓄積することができました。

当社の物流ノウハウは精密機器や電子部品に限らず、様々な分野に応用しています。北海道から沖縄まで、地域に即した事業はそのままに、また全国を俯瞰しながら全体最適のロジスティクス提案を強化していきます。

■ SBS 三愛ロジスティクス株式会社

〒160-6125 東京都新宿区西新宿 8-17-1
住友不動産新宿グランドタワー 25 階
TEL 03-6772-8203
URL <https://www.sbs-nexthird.co.jp/sbsnexc/sbs-sanai/>

【事業内容】 地域における物流トータルソリューション事業



SBS 三愛ロジスティクス

OPTOWL

ここから、大きな光を



当社は1973年にリコー光学株式会社として創業し、2024年7月1日に「株式会社オプトル」として新たなスタートを切りました。

私たちは光の力を価値に変えお客様のニーズにカスタマイズさせてその価値を提供するモノづくり企業です。「光の恩恵を幸せにつながる価値へ」を経営理念に定め、これからも光の可能性を追求し技術革新に挑みます。社員一人ひとりがこれまでの取り組みを自信に変え、自律し、仲間・パートナーを信頼し、より強固となった「志」のもと幸せにつながる価値の創出を目指して挑戦し続けます。

■ 株式会社オプトル

本社 〒224-0035 神奈川県横浜市都筑区新栄町 16-1
TEL 045-286-5112
花巻事業所 〒025-0394 岩手県花巻市大畑第 10 地割 109 番地
TEL 0198-26-4011
URL <https://www.optowl.com/>

【事業内容】 ADAS 向け車載カメラや HUD 部品、プロジェクターレンズ、光学デバイスの企画・開発・製造・販売とそれらを使用したサービスの提供



オプトル

佐星醤油

佐星醤油



明治30（1897）年創業の醤油醸造元。理研陽画感光紙の九州総代理店を兼業していた縁で、市村清氏と出会い、代理店の権利を譲渡しました。

2021年10月、三愛会に入会。

歴史の中で育んできた伝統と技術をもとにしたモノづくりと社員一人一人が考え行動していくヒトづくりの二つを柱に醤油を通じて日本の食文化を広げ、豊かな社会づくりのお手伝いすることを実践してきました。今後も変わることなく本物の商品をお届けし、質の高い経営を目指してまいります。



佐星醤油株式会社

〒840-0813 佐賀県佐賀市唐人 1-1-16

TEL 0952-23-4624

URL <http://www.saboshi.co.jp/>

【事業内容】醤油製造業、駐車場業、保険代理業

リコー三愛グループ健康保険組合

リコー三愛グループ健康保険組合は1958年1月1日に厚生労働大臣の認可を得て設立された健康保険の仕事を行う公法人で、政府に代わって企業の独自性を生かしながら健康保険事業を運営しています。

現在49事業所（会社）が加入しており、任意継続者も含め2025年12月末現在、被保険者数は4万2771名、被扶養者数は3万3813名となっています。

皆様からいただいた保険料は、医療の給付や給付金の支給など、保険給付に使われており、併せて保健事業にも用いられていますが、それ以外にも高齢者の医療を支援する費用をまかなうことにも使われています。

健康保険組合の役割

● 保険給付・医療給付を中心に

被保険者や被扶養者の病気、けが、出産などのとき、医療費の負担や給付金の支給をしています。保険給付には、法律で定められた法定給付と、私たちの健康保険組合が独自に行う付加給付の2つがあります。

● 保健事業・健康増進のために

健保加入者の健康保持・増進のための支援を行っております。

具体的には次のような項目になります。

- ・ 健康診断促進のための受診費用補助
- ・ 健康診断結果に基づく保健指導
- ・ 健康づくり活動の企画や各事業所の活動支援・補助金支給

△提供
がん予防セミナー動画配信や禁煙支援プログラム等



リコー三愛グループ健康保険組合

〒140-8665 東京都品川区南品川 6-11-6

TEL 03-3740-4881

URL <https://www.ricoh-san-ai-kenpo.or.jp/>

【事業内容】加入会社社員・家族の医療給付と保険事業

市村清新技術財団

当財団は1968年12月12日、内閣総理大臣により設立許可され、同月16日に逝去したリコー三愛グループ創業者・市村清の遺言により、個人所有の全有価証券（リコー三愛グループ各社のもの）が財団に寄贈されました。その後88年1月8日に逝去した夫人所有の有価証券（同）、その他の財産も遺言により財団に寄贈され、財団はこれらの財産の果実（主に配当金）をもって運営されています。

当財団は、創立者が提唱した「三愛精神」のもと、技術革新による新分野を醸成開拓することが最も重要であるとの観点に立ち、日本の経済社会の発展と国民生活の向上に寄与したいとの遺志に基づき、次の事業を展開しています。

- 新技術開発助成
- 市村賞贈呈（産業賞、学術賞、地球環境賞）
- 植物研究助成
- 少年少女創造性育成（市村アイデア賞贈呈、キッズ・フロンティア・ワークショップ）
- 地球環境研究助成
- 市村賞受賞記念フォーラム



公益財団法人 市村清新技術財団

〒 143-0021 東京都大田区北馬込 1-26-10
 TEL 03-3775-2021
 URL <https://www.sgkz.or.jp/>

【事業内容】 新技術開発助成、市村賞贈呈、植物研究助成、少年少女創造性育成、地球環境研究助成、市村賞受賞記念フォーラム

リコーグループ福祉会

創業者・市村清は、三愛精神の第一に「人を愛す」を掲げました。そして、従業員に対しては、「社員は事業の協力者である」、「会社の発展と社員の幸福の一致を図る」という強い信念を持っていました。

リコーグループ福祉会が運営する「共済」は、その考えを原点に置いています。会社と会員が、役員・マネジャー・メンバーの区別なく対等な立場で会費を出し合い、困った時に助け合おうという「相互扶助」、そして公的制度や会社の制度に加えて、自らも備える「自助努力」の考え方。

私たちはこの二つの考え方を基本に、透明・健全な運営に努め、会員の皆さまから「あってよかった」と言われる団体であり続けます。

- 主な共済給付
 - 死亡給付／入院給付／後遺障害給付／結婚・出産祝金／家族弔慰金
 - 傷病見舞金／災害見舞金／遺児育英年金／退会餞別金 など
- 生活支援サービス
 - 生活優待（提携リゾート施設優待等）
 - 個人相談窓口（無料相談・健康・介護・相続・税務・金融・年金・労務等）
 - 儀式・終活支援サービス（全国の契約斎場約2700カ所の割引利用）



リコーグループ福祉会 沿革

1979年 リコー三愛青い鳥安全会として設立
 1981年 労働保険事務組合認可取得
 1985年 リコー三愛グループ安全会に名称変更
 2016年 リコーグループ福祉会に名称変更

会員企業および会員数

15社 20,600名（2026年1月1日現在）

リコーグループ福祉会

〒 143-8555 東京都大田区中馬込 1-3-6
 TEL 03-3777-4278
 URL <https://www.rnavi.com/fukushikai/>

三愛会

創立80周年 これまでそしてこれから

発足

『従業員は事業の協力者である。信条とする三愛主義を徹頭徹尾貫いて、彼らが勤めを楽しい面白いこととして愛するように導いていきたい。そして、働くことに何の心配もつきまとうない、世界のどこにも類例のない独特の『市村産業団』というものを作り上げていきたい』

創業者・市村清は、創業当時から抱いていたこの思いを実現するためには、各社相互の連携を図ることが大切だと考え、1944（昭和19）年8月、市村が創業した理研光学工業、理研特殊製鉄など7社で、三愛会の前身である「自蹊会」を設立しました。

そして終戦翌年の46（昭和21）年4月4日、「自蹊会」を「三愛会」と改称し、その目的を「傘下各社の連絡統制を図り関係事業の助長を期する」としました。

同年12月、機関誌『三愛』（現『三愛会会誌』）を創刊し、誌上で「三愛精神」（人を愛し 国を愛し 勤めを愛す）を発表しました。

グループ各社とその社員たちが三愛会や機関誌『三愛』を介して強い絆で結ばれること、それが市村の望みでした。

目的

68年（昭和43）年12月16日、市村は急逝しました。

後を託された館林三喜男第2代三愛会会長は、翌年12月、新たな三愛会の目的を、「本会は、創業者市村清の経営理念である三愛精神『人を愛し 国を愛し 勤めを愛す』を基盤とするリコー三愛グループ各社

をもって構成し、創業者の遺志を尊重して会員会社相互の発展と団結、ならびにグループのイメージアップをはかることを目的とする」と定めました。三愛会の目的は今も変わらず引き継がれています。

活動

時代を経るに従い、三愛会はその時代の環境変化に合わせて、活動を変えながら今日に至っています。

リコー三愛グループの経営統制活動に重きを置いた時代、グループ共通の福利厚生活動に重きを置いた時代、グループ各社間のコミュニケーションに重きを置いた時代、グループ外へのPR活動に重きを置いた時代などさまざまな時代を経て来ました。

その間、変わらず大切にされた活動は、創業者・市村清を顕彰する活動と、「三愛精神」を次の世代につなげる活動でした。

これから

三愛会は2026年4月4日、創立80周年を迎え、新たな第一歩を踏み出します。

まず、市村清顕彰活動と、「三愛精神」を次の世代につなげる活動は、これからも変わらずに続けていきます。

そして、「会員各社が共同で取り組む活動を通して、社会的価値を提供し、より強い絆を築く」こと、それが新たに踏み出す一歩です。

これらの活動を通して、リコー三愛グループ各社および社員間の絆を深めるとともに、グループ外からの信頼と好感を得ることを目指していきます。

市村清の著書・関連図書

『茨と虹と市村清の生涯』
（改訂版）
尾崎芳雄著



『市村清実践哲学』
（新装版）
市村清著



日本経済新聞に掲載された「私の履歴書」を担当した著者（当時 新聞記者）が、創業者・市村清の全生涯の記録をまとめた伝記。

佐賀県の貧農の子から身を起し、激動の昭和産業史に異色の実業家として光芒を放った市村の人生を描く。

市村清が生涯貫き通した実業家としての姿勢とは、どのようなものだったのか。全7章にわたる市村の実践哲学は、人はどう生きるべきか、企業人はどうあるべきかを示唆する内容に富んでおり、私たちに前に進む力を与えてくれる。





主な活動

三愛会では、創業者・市村清の顕彰と「三愛精神」を次の世代につなげる役割を担ってさまざまな活動を実施しています。

ホームページの運営

三愛会のさまざまな活動やグループ創業者・市村清、三愛会会員会社の紹介や情報を発信しています。

●今月の市村清

貧しかった幼少時代から、事業家として成功を収め、世の中のために尽くした市村らしいエピソードを紹介しています。(毎月1日に更新)

●生誕125年特設サイト

市村清の生誕125年を祝して、市村の生涯を分かりやすくまとめた特設サイトをオープンしました。

●会誌すくらっぷ帖

過去の『三愛会会誌』から選んだ、懐かしい記事やとっておきの記事のPDFを公開しています。



『三愛会会誌』の発行

年2回発行。リコー三愛グループ社員向けに、グループ各社のニュース、特集などを掲載した機関誌です。



F M 佐賀との番組協賛

市村清のことをもっと身近に感じてもらえるようFM佐賀の制作するラジオドラマに協賛しています。今春は佐賀大学 山本長次教授の特別監修のもと、「5分でわかる! 市村清の経済学」を制作しました。経済を切り口に市村の新たな魅力を発信しています。

市村清・ゆかりの地ツアーを開催

グループ社員の皆様が創業者の過ごした土地に立ち、その場を肌で感じて、創業者の思いに共感する機会にしていたくことを目的に、「市村の故郷・佐賀のゆかりの地」と「市村が眠る墓所・賢崇寺をはじめ都内のゆかりの地」を巡るツアーを毎年交互に開催しています。



『リコー三愛グループ案内』の発行

年1回発行。三愛精神およびリコー三愛グループや三愛会について紹介した広報誌です。



愛の手募金活動

リコー三愛グループ社員による「愛の手募金」は、1975年にスタートしました。毎年集められた浄財は、社員の遺児や重度の障がいを持つお子さんたちへプレゼントとして贈呈しています。



三愛会支部活動

北海道、東北、東京、神奈川・東静岡、中部、近畿中国、九州の8支部を置き、さまざまな活動や行事を展開しています。

■ 三愛会

〒143-8555 東京都大田区中馬込 1-3-6
TEL 050-3534-3401
URL <https://san-ai-kai.jp/>

【構成】

- 会員会社 42社・団体 (2026年1月1日現在)
従業員数 約38,000名
- 常任理事会 三愛会の最高議決機関
三愛会会長と常任理事会社4社*の社長で構成
*リコー、三愛オプテック、リコーエレメックス、リコーリース
- 理事会 三愛会に関するあらゆるテーマについて検討し、常任理事会に提案
- 支部 全国8支部
- 総合事務局 東京に本部
各常任理事会社、各会員会社、各支部と連携を取って、三愛会活動を推進

“はたらく”に、
喜びを。



私たちのサービスが実現するのは、好きな時に、好きな場所で、自由にはたらける世界。
はたらく人、場所、ワークフローが自在につながり、人間らしい想像力が発揮される未来。
そして、“はたらく”の変革に実現する、持続可能な社会。
リコーは、あるべき未来を想い描き、今をかえていきます。

はたらく喜びを、生きる喜びへ、つないでいくために。